



# THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKOROZAWA

2024年2月 (2023年度) 通巻 410号

今月のテーマ：TOF・FF・HTW



会長	澁谷弘祐	クラブ会長主題 「親睦を通して、互いを知ろう」
副会長	小関京子	国際会長 ウルリック・ラウリドセン ‘Let Your Light Shine’ 「輝かそう、あなたの光を」
書記	宮地輝子	アジア太平洋地域会長 利根川恵子(川越クラブ) [変革のための光となるう]
会計	金本伸二郎	東日本区理事主題 山田公平(宇都宮クラブ)「未来のために今、学びと気づきを！ 未来のために、自信と喜びを感じる機会を！」
		関東東部部長主題 長尾昌男(千葉ウエストクラブ)「親睦を糧にクラブライフの充実」

## 今月の聖句

「宝は、天に積みなさい。」  
マタイによる福音書6章20節

## 2月 例会プログラム 埼玉3クラブ合同例会

日時：令和6年2月24日(土)14:00～

会場：ウエスタ川越会議室

プログラムの詳細は後日お知らせします

## フィリピンパンガシナンワイズメンズクラブと 埼玉3ワイズの合同例会 大澤和子

1月27日、アジア太平洋地域大会 in 香港でIBC(国際兄弟クラブ)を結んだフィリピンパンガシナンワイズメンズクラブと埼玉3クラブの合同例会がありました。

(埼玉クラブは立ち合いクラブ。近々、仲間になってくれると嬉しいです。)所沢クラブからは澁谷会長、宮地書記、そして大澤が参加しました。利根川恵子アジア太平洋会長の通訳で、今後の協働のあり方について話し合



いました。パンガシナン総主事のジミーさんから、フィリピンへのお誘いがあり、日本のワイズからもユースのワークキャンパーを送り出すだけではなく、ワイズメンのスタディーツアーに参加したい旨の話がありました。

## 新しい年を迎えて

黒田 和代

今年はお正月早々からいろいろなことがあり、素直に「おめでとう」とあいさつできない気分のまま過ごしています。元日だろうが何だろうが、人間の都合なんて全く関係なく発生する自然の脅威を改めて思い知ったのと同時に、「絶対安全」なんてことはどこにもないことも改めて思い知った気がします。これからは、「万が一」はいつでも我が身に降りかかりうることを常に心の片隅に置き、でも必要以上に怯えずに謙虚に受け入れて、何事もなく一日無事に過ごせたことに日々感謝しながら、丁寧に過ごしていきたいと思っています。

災害と言えば、私の故郷・熊本でも、2016年4月に大きな地震があり、甚大な被害がありました。熊本市内に住んでいる私の家族も、直接被害にあい大変心配しました。実家にかけてつけようかどうか思案していた折、当時所属していた日本社会福祉士会から被災地支援要員派遣の募集があったので、すぐに希望して地震から約1か月後の熊本に派遣してもらいました。

熊本到着後、実家の様子を見に行くと、幸い、母と妹家族が住むマンション自体には大丈夫で、断水も復旧していて、普通の生活がもどっていました。しかし、食器棚が倒れて食器類は割れてしまい電子レンジも床に落下して壊れるなど、それなりの被害があり、あれも買わなきゃこれも買わなきゃと大変そうでした。

支援要員として派遣された、益城町(ましきまち)と西原村という地域は特に被害が甚大で、多くの家屋が倒壊・半壊状態にあり、ブルーシートだらけの風景は胸に迫るものがありました。

私は、仮設住宅を回り、被災した方々の心配事や困りごとを聞き取り、心身の健康状態を確認するという役割

でした（ほかの派遣員の方々は「熊本弁」に大変苦労されていましたが、私は熊本弁ネイティブなので被災者の方々とのコミュニケーションはスムーズでした）。

阿蘇にある西原村は、被災者の多くが近くに畑を持つ農家の方々でした。家はなくなっても畑は無事で、仮設住宅から毎日のように畑に通っておられる方々は思っていたよりお元気で、暮らしの立て直しにも前向きでした。

一方、益城町は住宅地であり個人商店も多く、住居兼店舗が倒壊してしまい、住まいも生業も失った方が多くいらっしゃいました。お店をなくした被災者のために、大きなテントで「仮設商店街」が作られていました。そこで買い物することが被災者への支援になるし、被災者が商売を継続できるようにという目的です。

一度そこへ、仲間とラーメンを食べにいったことがありました。注文を受けていた同年代の女性に、世間話のつもりで「私も熊本出身、まさか熊本がこぎゃん（こんなことに）なるとは夢にも思わなかった。」と熊本弁で伝えたところ、女性の顔から笑顔が消え、目から涙をあふれさせながら「…なんもかんも無くなってしまった！」と声を詰まらせたのを鮮明に覚えています。

能登のニュースを見ながら、あの時の熊本のことをいろいろ思い出しています。何もかも失ってしまったと泣いておられた女性は、その後、再びラーメン屋を始めることができたでしょうか……。

熊本地震の時、仮設住宅で暮らす方々からお話を伺った経験から「たとえ大きな災害に見舞われても、暮らしの中の何かが継続していることの大切さ」を感じました。畑仕事、通勤する仕事、家族の世話……何かしら「変わらず続けられること」や「役割」がある人は、住まいをなくしても「暮らし」は継続していると感じられる人は比較的前向きでした。一方、住まいも仕事もなくし、家族もいない人（家族を亡くした人）は、「暮らし」そのものが分断されたように感じ、本当に辛い思いをされるようです。

能登の避難所暮らしは、寒い季節でもあり大変でしょう。畑仕事や漁に出たくても、雪や寒さで思うに任せないでしょう。輪島塗など、伝統工芸の技術を持つ方々も、大切にしてきた道具や材料、渾身の作品を失い、どんな気持ちでおられるのでしょうか。「全てを失ってしまった」と悲しんでおられる方も少なくないでしょう。

被災地の方々へ、物質的な支援ももちろん必要ですが、精神的な支援が行き届きますように祈ります。失ったものは計り知れないけれど、命がある限り、すべてを

失ったわけではない、被災者の皆様が、希望を失わずに前に進めますように、心から祈ってしたいと思います。

## 1月例会報告

宮地輝子

新年例会の卓話は新入会の坂本さん。（卓話の詳細はブリテン12月号 [https://ys-east.or.jp/club-news/club\\_news\\_area/cn-kantohigashi/tokorozawa-ym/](https://ys-east.or.jp/club-news/club_news_area/cn-kantohigashi/tokorozawa-ym/)）初めてのアジア太平洋地域大会参加の報告をしてくださいました。大会の指揮をとられたアジア太平洋地域大会会長の利根川さんも川越クラブの面々と一緒に駆け付けてくださいました。また、香港YMCAのプールで指南いただいた埼玉クラブの衣笠さんも飛び入り参加で、総勢17名。にぎやかな例会になりました。埼玉と川越の皆様への到着が遅れたので、その間に他のプログラムを進め、新年会に代わるお弁当をいただき始めました。

皆さまの揃ったところで、坂本さんの卓話『アジア太平



洋地区大会に参加して』を始めました。卓話の内容はブリテン12月号で報告済みですが、一緒にアジア太平洋地区大会に参加された埼玉、川越の皆さまの大会での感想などが話されました。「香港が中国に返還されて20年が過ぎたが、以前は英語が主流だったが、今はすっかり、中国語に変わっていた。」「中国に返還されてから、物価が高いと感じた。また、いろいろ変わったと感じた。」など、また「香港YMCAのプールに入ったが、日本のYMCAのプールと同じだったのはよかった。」という話に小谷総主事から「かつて台湾からスタッフが日本にプールの仕組みを研修に来て、それを持ち帰ったの



で、同じなのでしょう」ということでした。香港での楽しいエピソードが披露され、終始、笑いに包まれ、新年にふさわしい例会でした。終わりに、川越の山本会長から、1月27日の埼玉・川越・所沢・パンガシナン、オンライン交流例会の案内がありました。

## ワイズ報告

澁谷弘祐

1月13日(土)18時より所沢センターに於いて1月例会を実施しました。卓話は、アジア太平洋地域大会 in 香港に参加された坂本憲枝さんの滞在記を伺いました。併せて、川越クラブから5名、埼玉クラブから1名の参加者があり、香港大会の裏話や様々な感想等聞くことが出来ました。ありがとうございました。また、小谷総事から能登半島地震緊急支援募金についてアピールがありました。ご協力をお願いいたします。

- ・1月27日(土)川越クラブとパンガシナンクラブとの交流会に澁谷会長と宮地輝子さん大澤和子さんの3名がZoomで参加しました。
- ・次期国際会長の投票を行いました。
- ・2月は埼玉3クラブ合同例会となります。

## YMCA 報告 所沢市立こぼと児童館 錦古里 則子

『所沢市立こぼと児童館』は、埼玉 YMCA 所沢センターから歩いて数分の所にある所沢市の施設で、2015年度より埼玉 YMCA が指定管理者として運営をしています。児童館は、「地域子育て支援拠点事業(乳幼児親子対象)」「放課後児童健全育成事業(生活クラブ)」「一般来館事業(小～高校生対象)」が主な事業です。



乳幼児親子は、定例の活動やイベントにかかわらず午前中から夕方まで毎日多くの来館があります。最近では、近隣の中学校から職業体験に来た中学生が乳幼児活動に参加をし、赤ちゃんを抱っこしたりよちよち歩きの子と一緒に遊んだりしました。ボランティアの小手指地区母子愛育班の方とも関わりを持ち、中学生と乳幼児親子、高齢者と普段はなかなか関わり合うことがない世代の交流ができました。【写真①】

平日の午後は児童館が最も活気のある時間になります。学校区である北中小学校から62名(2023年12月1日現在)の生活クラブ登録者が、第二の我が家として児童館に帰ってきます。帰ってくると宿題を済ませ、友達と集い館庭や館内でバスケットボー

ルや野球、ドッチボール等を楽しむ子、黙々と一輪車や鉄棒を練習する子や図書室でお気に入りの漫画を読みふける子、市内に11館ある児童館の中でも広いこぼと児童館で放課後を過ごす子ども達は、沢山の選択肢から毎日自分で選び考え有意義な時間を過ごしています。また、プールや体操、英語のためYMCAに通う子どもも多く、これはYMCAが運営しているからこそだと思います。【写真②】



週末になると部活動が休みの中学生が開館時間を待つようにやってきて、卓球の練習に励んでいます。小学生の頃は遊びの一つとしてラケットを持っていた彼/彼女らも、今では本格的なラリーを見せてくれます。また、年末は多くの高校生が主催者を担ったウィンターフェスの



会場にもなりました。2時間程の開催時間にも関わらず多くの親子連れが訪れて、お兄さんお姉さん達が準備をしたゲームやクラフトに目を輝

かせて楽しむ姿が見られました。【写真③】

YMCAの掲げる「見つかる・つながる・よくなっていく」を地域に根付いて幅広い世代と共に実現できる場所として、これからも児童館運営に尽力していきたいと思えます。

## 今後の行事予定

澁谷弘祐

2月1日(木)ブリテン発行

2月24日(土)14:00～ 於:ウエスタ川越会議室  
埼玉3クラブ合同例会

卓話:加藤英毅氏 AstroScale 社長  
“アストロスケールのビジネス⇒「宇宙の大掃除/宇宙でのJAFになるぞ!!」

2月例会報告:上山武夫 3月号一面:小林恵子  
3月9日(土)～10日(日)2023-2024年度 次期会長・部役員研修会、於:東山荘

3月16日(土) お花見例会(大泉)

## 1月例会

所沢クラブ会員9名・ゲスト6名

メネット1名・コメント1名 計17名